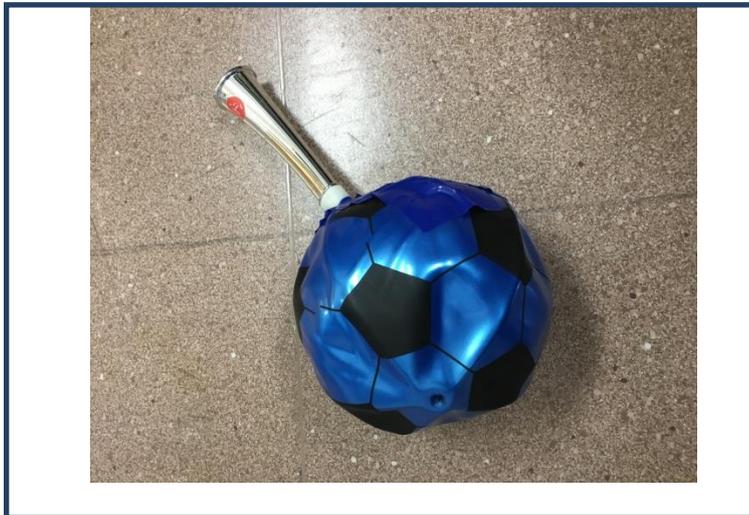


教材・教具名： プッシュフォン

製作者：伊瀬知 和枝

主な使用場面・領域・教科等： 音楽

<図・写真>



<材料・製作方法等>

〈材料〉

- ・ビニールボール：直径15cm程度
(100円ショップ)
- ・スポンジ：ボールの中に入れるもの
(100円ショップ)
- ・ガムテープ（固定用）
- *クワイアフォン（学校備品）



<ねらい>

・音楽の授業「楽器を鳴らして、音を聴いたり音の重なりを感じたりする」活動で、「ツァラトストラはかく語りき」の曲の演奏（簡略化したもの）に使用した。

<指導方法・留意点等>

- ・子供の上肢の限られた動きで音を出す楽器の一つとして、クワイアフォンにボールを取り付けて、押すと音が出るようにした。「ド」「ソ」、高い「ド」の音を出すように三つ作った。
- ・音の出る空気量と、あまり力がなくても押せることを考えると、ボールは直径15cm程度が適当だった。

<指導経過・成果・課題・展望等>

- 音を出すタイミングは難しいので教師が支援した。上から叩くような動作で音を鳴らし、音が面白いのか楽しそうな笑顔を見せたり、自分で出そうとする様子が見られたりすることもあった。
- 子供によっては、押し続けることが難しいかも知れない。
- ボールを一回押した後、空気が自然に戻ることを期待したが、なかなか空気が戻らず教師が吹いてボールを膨らませ必要があった。
- ボールの中にスポンジを入れることで、形が維持され自然に空気が戻りやすくなった。
- 安価な材料を使って簡単にアレンジすることで、楽器を活用することができた。
- ガムテープを使用したけど、ボールの材質上はがれやすく、空気漏れが起こり、十分音が出にくいことがあった。